

家電量販店で万引き容疑の男、警報鳴らないようにした？…防犯タグ1600個押収

2021/08/05 05:00

家電量販店で万引きをしたとして京都府警城陽署が7月に窃盗容疑で逮捕した滋賀県草津市、無職の男（46）の関係先から、防犯タグが約1600個見つかったことが分かった。何らかの方法で店舗の防犯ゲートで警報が鳴らないようにしていたとみられる。地検は4日、男を窃盗罪で起訴した。

京都府警察本部

起訴状などによると、男は6～7月、府内の家電量販店でヘアアイロンなど計3点（販売価格計約4万円相当）を万引きした疑い。捜査関係者によると、「ネットで転売して生計を成り立たせるため、家電量販店を狙った」と供述し、容疑を認めている。

城陽署は、男が使用していた車などから防犯タグ約1600個を押収。店舗出入り口の防犯ゲートの警報が鳴らないよう商品を持ち出し、発覚を遅らせるため、タグを持ち帰るなどしていた。内部の配線を切られたタグも見ついているという。

「工業会日本万引防止システム協会」（東京）が防犯タグなどの「EAS（電子商品監視）機器」を取り扱う27社に行った調査によると、2019年に家電量販店に設置された機器は2639台。15年（1488台）の1・8倍に増えた。